

EU レクチャーシリーズ第1回 “German Event Day”

「German Event Day」を開催しました

2014 年 10 月 30 日(木)国際文化学部 E 棟 4 階大会議室において、「German Event Day」を開催しました。

大月国際文化学研究科長のオープニングスピーチならびに日欧連携教育府 萩原府長より府の紹介及びグリーティングスピーチがあり、イベントを開会しました。

セッション1は DAAD ドイツ学術交流会 ウルズラ・トイカ東京事務所長より DAAD の紹介とドイツ留学に関する有益な情報を提供していただきました。続いて、本学国際文化学研究科の藤野教授、クレック准教授、その他 DAAD の奨学生やドイツ留学経験者からドイツ留学に関して熱いメッセージが発信されました。セッション2ではドイツ留学に関する個別説明会が行われ、本学学生たちが DAAD 関係者に熱心に質問をし実りある時間となりました。セッション3では EU レクチャーシリーズとして大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館よりインゴ・カールステン総領事に、「欧州におけるドイツの役割」についてご講演いただき、今後の EU 発展における課題や展望などを盛り込んだ貴重なお話をいただき、質疑応答では本学関係者、及び一般参加者から多くの質問がありました。

最後に、DAAD ドイツ学術交流会よりご協賛いただき、和やかなレセプションが開かれました。ドイツや欧州に関心のある本学生、留学生、教員、更には一般の方々も含め約 70 名が参加し、親睦を深めました。



EU レクチャーシリーズ第2回 “What does the EU mean to Italy?”

イタリア総領事による講演会を開催しました

2014年11月17日(月)15:10-16:40に「EUレクチャー・シリーズ」第2回として、マルコ・ロンバルディ大阪イタリア総領事による講演会 “What does the EU mean to Italy?”を、逐次通訳を入れて、六甲台第1キャンパス本館にて開催しました。

国際関係論の授業時間に栗栖薫子先生の司会で始まり、欧州連合でのイタリアの位置づけや、EU発足による経済的・社会的なメリット、また欧州諸国が広域的にローマ帝国時代以来の発展を実現することができた理由についても学ぶことができました。

学生からは興味深い質問が多く寄せられ、マルコ・ロンバルディ総領事がわかりやすく回答してくださり、大変和やかな雰囲気での講演会を終えました。



EU レクチャーシリーズ第 3 回

“What does the EU mean to France?”

フランス総領事による講演会を開催しました

2014 年 12 月 22 日(月) 13:20-14:50 に「EU レクチャー・シリーズ」第 3 回として、シャルル＝アンリ・ブロソー在京都フランス総領事による講演会 “What does the EU mean to France?”を、逐次通訳を入れて、鶴甲第 1 キャンパス F 棟にて開催しました。

国際文化学科の坂井一成先生による国際関係論の授業時間に、欧州連合の形成におけるフランスの貢献や現在の法的・経済的・文化的なフランスの位置づけなどについて、わかりやすい表現で学ぶことができました。

学生からは欧州の統合とアジア地域統合の相違など興味深い質問が多く寄せられ、大変和やかな雰囲気での講演会を終えました。



EU レクチャーシリーズ第 4 回

“What does the EU mean to Belgium?”

ベルギー公使参事官による講演会を開催しました

2015 年1月19 日(月)15:10-16:40 に「EU レクチャー・シリーズ」第4回として、クリストフ・ド・バソンピエール在日ベルギー公使参事官による講演会 “What does the EU mean to Belgium?” を、逐次通訳つきで、六甲台第1キャンパス本館にて開催しました。

法学研究科の関根由紀教授による「社会保障法」の授業時間に講演会は開催されました。講演では、ベルギー国の成り立ちを振り返りつつ、小国ながらヨーロッパにおいて、ベルギーが政治的、経済的力をもつに至った過程や取組みについてわかりやすく話して頂きました。ベルギーは、国際機関が多く集まる国ということから学生の興味を引く内容であったようで、日本が世界的な地位を向上させるためにできることは何かなど、公使に対し学生からも多数質問が寄せられ、活発な議論を交わしました。

講演後の懇談会では、ベルギーに留学を希望する学生や教職員もクリストフ・ド・バソンピエール在日ベルギー公使参事官と大変和やかな雰囲気では、言葉を交わし、欧州の拠点としてブリュッセルにオフィスを擁する神戸大学にさらなる支援の意向を示されました。



EU レクチャーシリーズ第 5 回 “What does the EU mean to Netherland?”

オランダ総領事による講演会を開催しました

2015 年 5 月 14 日(木) 15:10-16:40 に「EU レクチャー・シリーズ」第5回として、ローデリック・ウォルス在大阪・神戸オランダ総領事による講演会 “What does the EU mean to Netherland?”を、六甲台第1キャンパス本館にて開催致しました。

ローデリック・ウォルス総領事のほか、ハイス・ヴァンスカイク副領事、また在大阪・神戸オランダ総領事館のインターン生二名も来学しました。

レクチャーは、法学研究科の増島建教授による「国際関係論Ⅱ」の授業時間に開催されました。オランダが欧州連合の歴史にどのように関わってきたか、またオランダと日本の古くからのつながりや共通点についても、大変わかりやすくご説明くださいました。

講演は英語で行われましたが、レクチャー後には学生からも英語で多くの質問が寄せられ、大変和やかな雰囲気の中で講演会の幕を閉じることができました。

また、講演会の前後にはオランダをはじめとする EU 圏への留学を目指す学生も交えた懇談会が開催され、オランダでの生活事情から留学中の勉学に対する姿勢など、学生からの多彩な相談にも丁寧にお答え下さいました。



EU レクチャーシリーズ第 6 回 “What does the EU mean to Ireland?”

アン・バリントン駐日アイルランド特命全権大使による講演会を開催しました

11月12日(木)、「EU レクチャー・シリーズ」第6回として、アン・バリントン駐日アイルランド特命全権大使による講演会と、講演に先立って学長表敬を行いました。

講演に先立って行われた学長表敬では、まず武田廣学長が、神戸大学が特にヨーロッパを重視して、欧州連合に関わる教育・研究や、欧州の高等教育機関との学術交流を行ってきた旨を紹介しました。また、アン・バリントン特命全権大使からは、EU 加盟後にアイルランドが変化する中で教育研究を重視してきたことや、小国で島国である点が日本とアイルランドで似通っていることなどについて学長と意見交換をされました。

講演会では、アイルランドの伝統・民族的な歴史的な背景や英国による占領からの独立、また第二次世界大戦後から欧州連合に加盟するまでの経緯などアイルランドが歩んできた道のりを分かりやすいスライドを用いて、説明してくださいました。また、EU 加盟後農業や産業にも変化が起こり、アイルランドの経済にも大きく影響した点、EU 域内の移動が簡単になった点など、EU 加盟による意義を分かりやすく身近な例を用いて説明くださいました。



EU レクチャーシリーズ第 7 回

“What does the EU mean to Austria?”

インゴ・ローシュミット在日オーストリア大使館商務参事官による講演会を開催しました

10 月 27 日にローシュミット在日オーストリア大使館商務参事官による講演会“What does the EU mean to Austria?”を開催しました。ローシュミット参事官はオーストリアの EU 加盟国として享受する多くの経済的利益について話をされました。同国はヨーロッパ共同市場のメンバー国として、EU 域内、特に東ヨーロッパに向けた物やサービスの自由な輸出が可能となっています。歴史的なつながりがある東欧諸国との関係はオーストリアにとって常に重要であり、EU の政治・経済の枠組みにおいて、オーストリアは相互に利益のある物やサービスの貿易を促進するために東南ヨーロッパとの関係を深化、拡大していると説明がありました。更に、ローシュミット参事官は今後起こる BREXIT (イギリスの EU 離脱) の EU における意味について言及し、イギリスが EU から離脱した場合は双方の政治・経済的基盤を失うだろうと強調されました



EU レクチャーシリーズ第 8 回

“What does the EU mean to Slovakia?”

ミハル・コットマン駐日スロヴァキア共和国特命全権大使による講演会を開催しました

11月1日(火)、ミハル・コットマン駐日スロヴァキア共和国特命全権大使が「EU レクチャー・シリーズ」第 8 回として“What does the EU mean to Slovakia?”のテーマで講演されました。

講演会は、4 限の国際文化科学研究科坂井一成教授の「国際関係論」の授業の中で行われました。講演会はスロヴァキア語・日本語の逐次通訳を使い、EU におけるスロヴァキア、今年7月から12月までの半年間を務める EU 理事会の議長国としての挑戦と機会、優先課題、任期前半の実績についてお話いただきました。スロヴァキアは EU への加盟により EU 域内の自由移動、留学または就労の自由、共通通貨ユーロの利用などの恩恵を受け、国民は EU に対して大変ポジティブな態度であるとお話がありました。また、議長国として公正な仲介の役割を果たすことが期待される一方、スロヴァキアとしての優先課題を重視できる機会でもあること、そして任期前半で気候変動問題、EU 域外との国境の保護、EU の拡大、日本関連では EU と日本の自由貿易協定、その他多岐に渡る分野の政策について非公式の首脳・閣僚会議、その他関連イベントを多数開催しているとのこと説明がありました。質疑応答では学生から EU 加盟によるネガティブな側面などについて質問がありました。

講演会終了後、ミハル・コットマン特命全権大使は武田廣学長を表敬訪問し、井上典之国際担当理事・副学長、坂井一成国際教育総合センター・プログラムコーディネーター部門長、花田エバ国際連携推進機構 EU 総合学術センター准教授が出席し懇談会を行いました。武田廣学長は、2005 年に EU インスティテュート関西がスタートして以来、神戸大学が欧州の大学・研究機関と強い連携を促進したことを説明した上、神戸大学が参加するナノフォトニクスにおける日本・ヴィシェグラード 4 カ国共同研究について述べました。大使からは、スロヴァキアの大学・神戸大学の間のさらなる協力に対する期待を表明し、武田廣学長と意見交換されました。



EU レクチャーシリーズ第 9 回

“60 years of the Treaty of Rome: what does it mean for the EU?”

【特別講演】：在大阪イタリア総領事、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事による講演会を開催しました

4月11日(火)マルコ・ロンバルディ在大阪イタリア総領事、ヴェルナー・ケーラー大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事が「EUレクチャー・シリーズ」第9回【特別講演】として“60 years of the Treaty of Rome: what does it mean for the EU?”のテーマで講演されました。

講演会は、2限の玉田大教授の授業「国際機構法」の中で行われました。前半は神戸ドイツ連邦共和国総領事ヴェルナー・ケーラー氏の講演がドイツ語と日本語の逐次通訳で行われ、欧州連合(EU)の歴史について、欧州経済共同体と欧州原子力共同体の設立条約であるローマ条約が2017年3月25日に締結されたことから、1989年ベルリンの壁崩壊とそれがもたらした東西ドイツ統合がヨーロッパ人とそのアイデンティティーにとっての象徴的な意義について述べられ、また現在のEUの組織と60年前に設立された主要な機関についてお話をいただきました。最後に同氏はEUと日本の多くの共通利益に関して、戦略的なグローバルパートナーとしての関係の重要性を指摘されました。

後半は在大阪イタリア総領事マルコ・ロンバルディ氏の講演がイタリア語と日本語の逐次通訳で行われ、現在EUが直面している問題について、イギリスのEU離脱と高まりを見せるイギリス国民のEUへの不満について言及し、過去60年を振り返りヨーロッパ人のアイデンティティーについて述べられました。また、現在の問題である経済危機や難民問題などを取り上げ、これらはEU自体の存在から独立した外的な要因によって決定される。これらの複合性によって早急な解決策を見出すのは困難ではあるが、過去60年間鼓舞してきた共同精神を持ち続けることによって、ヨーロッパの国民第一、イタリアもしくはドイツの国民第二とし、共通の解決策をもって前進できると述べられました。

講演の最後にはQ&Aセッションが設けられ、学生たちから将来のEUについて、特に二速度欧州の考え方や国境なきテロ行為について興味深い質問が投げかけられました。

講演後両総領事は本学社会科学系図書館を訪れ、ローマ条約調印60周年記念パネル展～Ever Closer Union～(共催：駐日欧州連合代表部、イタリア文化会館(大阪)、本学国際教育総合センタープログラムコーディネート部門、協力：本学附属図書館)を鑑賞されました。このパネル展は現在世界各地で開催されています。



ヴェルナー・ケーラー氏



マルコ・ロンバルディ氏

EU レクチャーシリーズ第 10 回 “What does the EU mean to Croatia?”

ドラジェン・フラスティッチ駐日クロアチア共和国特命全権大使による講演会を開催しました(11/6)

11月6日(火)、ドラジェン・フラスティッチ駐日クロアチア共和国特命全権大使が「EU レクチャー・シリーズ」第10回として“What does the EU mean to Croatia?”のテーマで講演されました。

講演会は、4限の国際文化科学研究科坂井一成教授の「国際関係論」の授業のなかで行われました。講演会は英語で行われ、EUの最も新しい加盟国であるクロアチアの歴史・経済に関する概要に始まり、対外政策における優先課題について、とくにEUとNATOとの関わりのなかで説明がありました。政治、経済、安全保障のすべてにおいて、EU加盟国であることの意味は大きく、イギリスがEUを離脱する状況のなかでクロアチアにとってEU加盟国であること以外に選択肢はないということが強調されました。しかし国際政治全体のなかで直面している課題、たとえばリベラルな法秩序と多国間主義の協調枠組みを揺るがす動き、テロや気候変動などを含む多岐にわたる安全保障の課題、地中海地域のみならずグローバルに展開している移民難民への対応について、クロアチアはEU加盟国として加盟諸国と協力して対処していく必要があることが説明されました。質疑応答では学生からバルカン半島におけるEU拡大の展望や、今後の日本との関係などについて質問がありました。

講演会に先だって、フラスティッチ特命全権大使は桜井徹国際文化科学研究科長を表敬訪問し、坂井一成国際文化科学研究科教授、花田エバ国際連携推進機構EU総合学術センター准教授が出席し懇談会を行いました。桜井研究科長からは、神戸大学の進めるダブルディグリーや交換留学などのとくにEU諸国の大学との交流プログラムの概要と、2017年度に発足した国際人間科学部が進めるグローバル・スタディ・プログラム(GSP)によって全学生を海外に派遣させる取り組みの説明がなされ、大使からは、クロアチアの大学・神戸大学の間のさらなる協力に対する期待が表明されました。

